

令和3年度職員採用選考試験
看護 専門記述試験 (3.10.17)

= 課題 =

○ 大腿骨頸部骨折患者の看護について

事例を読み、次の質問について、それぞれ記述しなさい。

事例 Aさん 80歳 女性 身長157cm 体重60kg

- ・診断名：右大腿骨頸部骨折 ・既往歴：糖尿病で内服治療中
- ・背景：5年前に夫と死別後、1人暮らし。ADLはすべて自立しており、友人と旅行に行ったり活動的に生活していた。性格は我慢強く、何でも自分でやらないと気がすまない。
- ・現在の状況：友人とデパートに買い物に出かけた際に、転倒して受傷した。救急車でB病院に搬送され、右下肢X線では右大腿骨頸部骨折(ガーデン分類Ⅳ)と診断され、入院と手術の必要性を説明され入院となった。息子たちの前では、「大丈夫よ、心配しないで」と言っていたが、けがでの入院、手術と初めてのことでばかりで戸惑いも多い様子だった。病日3日目、全身麻酔にて人工骨頭置換術を受けた。リハビリテーションは、術後1日目から、介助で車椅子への離床を開始し、徐々に起立訓練、杖歩行訓練、階段昇降訓練などを行い、患側への荷重は術後4～5日目から開始予定である。

- (1) 一般的に術後のリハビリが妨げられる要因を2つ挙げ、それぞれに対する具体的なケアを答えなさい。
- (2) 術後4日目に、主治医から「1/3 荷重開始」との指示を受けた。具体的な歩行の仕方について答えなさい。
- (3) 老年看護学実習中(健康障害のある高齢者の看護)の学生Cは、術後5日目、検温のためAさんの部屋を訪室した。
<検温場面のやり取り>
患者A：「足の創のあたりを触ると熱いけど、大丈夫かね。」と訴えた。
学生C：「少しさわらせて下さい。」と言いながら患部に触れると熱感を感じた。自分もケガした時の体験を思い出し、「やはり、創があるせいですかね。」と答えた。
検温後、実習指導者へ「足の創の部分に熱感がありました。これは、受け持ち看護師に報告した方がいいですか?」と相談に来ました。あなたが実習指導者だったら、教育的な関わりとして、学生Cにどのような声をかけるか、具体的な発言とその意図を述べなさい。